

「わたしの街の消防団」

西原中学校一年 小谷 春樹

私には、「消防団」と聞くと、「地域のたのみにボランティアでがんばる男の人」というイメージがあります。

なぜかというところ、東日本大震災についてのテレビのニュースなどの放送をよく見ますが、その中で消防団の方々が、地域の人々のためにいろいろな活動をしている姿を見るからです。自分のことや、自分の家族のことだけに、も本当は大変なのに、地域の人々のためにいろいろな活動をしている消防団の人達は、すごいと思います。

私の住む西原村にも消防団があります。私の父も、十五年くらい消防団に入って活動しています。あと十年くらいは、少なくともがんばりたいと言っていました。

火事や行方不明などの人のそうさくについての防災無線放送が流れると、消防団の服に着がえて、家を出て行きます。夜、私が寝る

時間になっても、消防団の活動のため帰ってこない時もあります。そんな時は、（父は大変だなあ、けがをしていないだろうか）と心配になります。

西原村には、現在八つの消防団の分団といわれていて、グループがあるそうです。人数は二百人以上の大人の男の人がいるそうです。今まで知らなかったのですが、大人の女の人も、女性消防団員として活動しているそうです。

どのような活動をしているかを父に聞いたところ、火災予防の呼びかけや、災害があった時の、消防団員や被災者の人々への炊き出し、初期の消火活動などを行っているというのでした。この意見文を書くにあたって、初めて知ったことでした。

たくさんさんの西原村の人々に支えられて、西原村の安全が守られていることを改めて心強く思いました。

そこで、私が西原村の一員として自分に

きることは何かを考えてみました。

まずは、事件や事故にあわないよう十分に気をつけること、家の中での火の用心など、自分の身は自分で守る努力をすることが基本だと思っています。

次に、普段から地域の一員として、地域行事への参加や、村の方々へのあいさつなどのコミュニケーションなどを通して、地域の連帯感を地域の人々などで保つことが大切なことだと思っています。連帯感を持つような人間関係を保つことは、大きな地震の時など、その時にとっても役にたつと思うので、まずはあ

いさつから心がけたいと思います。これらの地域のまとまりを大切にして、これからの生活で地域との関わりを増やしていきたいです。私も将来地域の役に立てるような大人になりたいと心から思いました。

人の役に立てる大人になって、地域の安全を消防団のように守れるようになりたいです。